

広域連携SDGsモデル事業提案概要

別紙 1

【事業名】 Sustainable Value Creation Tour

【提案者】

岡山県真庭市（代表）
岡山県岡山市
岡山県倉敷市
岡山県西粟倉村

【事業概要】

広域連携によるスケールメリット（取組の多様性、選択肢増、ターゲット層増、発信力強化など）を活かし、そのすべてを体感できる岡山県版「SDGs体感ツアー」を実装することで、afterコロナ・withコロナにおける観光振興へつなげると共に、都市規模や地域性に応じた地域課題解決の仕組みを体感型で発信（見える化）し、ローカルSDGsの取組促進を図る。

地域概要

岡山県全域をエリアとして設定。北は中国山地、南は瀬戸内海と山間部から沿岸部までと豊富な資源を有しており、また、南北は山陰と四国、東西は広島・九州、兵庫・大阪などの西日本の交通の要衝であり、東西南北を結ぶ高速道路網があり、交通の利便性も高い地域である。本県のSDGs未来都市4都市（岡山市、倉敷市、真庭市、西粟倉村）が連携し、各都市の魅力（ESD、流域連携、エネルギー、森林活用など）を活かした事業構築を行う。

課題・目標設定

岡山県内の特徴的なSDGsの取組の見える化が必要であるが、体感できる有効な仕組みがなく、県内全域へSDGsの取組が浸透しているとまで行っていない。また、コロナ禍での観光業への影響も喫緊の課題。そのため地域課題解決を体感できる観光ツアー（Sustainable Value Creation Tour）を開発し、ローカルSDGsの取組促進を図る。



事業による相乗効果等



執行体制

提案4都市で、連携都市連絡会議（仮称）を設置し、推進母体となり、旅行業者及び地域DMOと連携し自走化を見据えた体制とする。
また、「おかやまSDGs研究会」等外部助言機能も有した体制とする。

多様なステークホルダーとの連携

4都市の連携団体等へ声かけを行い、産官学金言のステークホルダーの参画による外部評価の機能も活用し、客観的かつ多角的な助言等も踏まえ合意形成を図りつつ、事業の推進を図る。

自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

- ・自走化に向けて事業検討を行うもので、開発したツアーを旅行業者が収益事業として運営する。
- ・各SDGs未来都市で実施しているパートナー制度等を有効に活用し、パートナー等へ活動を見える化する。
- ・各SDGs未来都市の取組の魅力を伝え、企業版ふるさと納税等の寄附獲得などによるコスト確保に務める。

●効果

- ・地域の魅力UP
- ・官民連携の促進
- ・人口減少対策
- ・関係人口増
- ・就業・起業、移住定住
- ・取組の横展開